

会員の広場



経済倶楽部ライフを満喫

前島 多丸（東京）

毎週金曜日の講演を聞くだけが、私が経済倶楽部に入っている楽しみではない。たとえば、講演会終了後も当日の講師が残っていただけの時は、小会議室で講演内容に関係するいろいろなことをさらに詳しく聞けるのもよい。また、毎週講演後に上演される名画鑑賞

会も、当日の題名を見て、「これ」と思うものなるべく観るようになっているが、さすがに「名画」とされるだけに、改めて感心する内容の映画が多いのもうれしい。

さらに、私の倶楽部ライフの楽しみはほかにもある。その一つは月に一回開かれ、10月で第49回を迎える「物申す会」への出席だ。この会合は前理事長・浅野さんの肝いりで始まったが、発足以来、深瀬・上田両幹事の下、その時々に適したテーマをあらかじめ決めておき、まずはテーマの提案者がおおよそその解説を行い、その後出席者たち（毎回14〜17名程度）が白熱の議論を展開するのだ。むろん、「聞くだけ参加」も許されるので、私などは博識・多才な会員の方々の貴重な意見を、感

心しながら拝聴している場合が多いのだが、それだけでも自分の知識が一気に広がってゆくような気がする。

もう一つは、やはり月に一回開かれ、10月で第110回目を迎える「経済金融懇話会」である。この会は前々理事長・高柳さんが創設された会だが、私も第1回からほぼ欠かさず出席させてもらっている。この会合は、定例講演会とは異なる日に開かれるのが通例で、出席者は毎回20〜25名程度いる。幹事役は高柳・夏目の両氏が務めており、やはりテーマのいくつかを幹事が事前に決めていたのだが、参加者はその場の空気や、ほかの話題を何でも自由に取り上げられるのが特徴だ。

会の冒頭には、私（前島）から直近1カ月

程度の間に起きた新聞記事を「最近の注目記事」として簡略に紹介。次に廣中さんから英エコノミスト誌記載の日本関連記事中心の解説が行われた後、参加者全員で自由に議論を進めるのを常としている。たとえば8月の会では、幹事から「みなさんが終戦年の8月15日には、どうしていたかをお話してください」との即興提案があった。参加者誰もがそれぞれ貴重な思い出が詰まっているらしく、結局は出席者のほぼ半分の方々の話は9月に持ち越しになってしまったほどだ。

本稿を書いていく日に、「2020年東京オリンピック」の開催が決定した。今後いずれの会でも、この話題をめぐって議論が広がることだろうと、今から楽しみにしている。